埼玉新聞「子ども食堂応援プロジェクト」

発想の転換で未来の〝当たり前〟を

全国に続々と広がりを見せる子ども食堂。県内でも時代の変化に応じた創造力あふれる取り組みが展開されている。その原点はさまざまな角度から社会や地域を見つめる想像力、そして他者への共感力にほかならない。未来の〝当たり前〟を目指す県内の特徴的な取り組みを追った。

子どもたちだけで気軽に食べにきて

甲州屋別邸（さいたま市浦和区）

国内初 移動式子ども食堂に込めた想い

NPO法人あいだ（熊谷市）

すべての子どもたちが食で笑顔になる世の中へ

地域のつながりで安心安全な子どもの居場所を

おおらかに愛情持って楽しく活動を

埼玉県子ども食堂ネットワーク 代表 東海林 尚文 氏

牛丼を子どもたちとの意思疎通ツールに

吉野家未来創造研究所 新フォーマット開発 野口 聖 氏

吉野家×埼玉県子ども食堂ネットワーク 対談

吉野家、県内食堂に毎月900食提供

全国6千カ所 居場所充実

コロナ禍で運営方法に変化

正しい情報発信で理解促す

協会場提供 川村建設 エクセルイン大宮

さいたま市大宮区桜木町1-1-64（大宮駅西口徒歩2分）

TEL048-650-1515 https://excelinn-hotels.com/omiya/

こども食堂・フードパントリー・学習支援・プレイパーク
こどもの居場所づくりのための活動を応援します
県民の皆様の温かいご支援をお願いします

埼玉新聞社会福祉事業団は、埼玉県唯一の地方紙「埼玉新聞」というメディアを活用して、広く県民からご寄託いただき、目的に即した寄付を行っています。

一般寄付

「広く県民のために役立てるため」皆様からお金や物資をご寄託いただき「こども食堂 木次応援基金」をはじめ「埼玉県シラコバト教育社会福祉基金」「埼玉県丸亀寮金庫」「日本赤十字社埼玉県支部」「埼玉県ユニセフ協会」「埼玉県交通安全対策協議会（交通遺児援護金）」等に寄付しています。

指定寄付

一般寄付の左記諸団体のほか、災害義援金などの場合は被災地の自治体・公的団体へ、左記以外の指定団体へ希望される場合は、指定団体へ心連絡や送金手続と報告等、書記者と指定団体との橋渡し役を果たしています。

さいたま希望の翼

障害者海外体験事業「さいたま希望の翼」を年に1回実施していましたが、新型コロナウイルスのため、2年休止しています。これまでに20回実施しており、1,000人を超える障害者、ボランティアの方が参加しています。安全でさまざまな海外旅行と国際交流の場を提供しています。障害があっても海外旅行体験によって、社会参加への自信をつけてもらうことと自立を目的としています。

埼玉新聞社会福祉事業団 理事長 関根 正昌 〒331-8686 さいたま市北区吉野町2-282-3（埼玉新聞社総務内） 電話 048(795)9930 FAX 048(653)9020

川村建設（エクセルイン大宮）は
「子ども食堂応援プロジェクト」に賛同します。

2022年3月29日（火）の埼玉新聞に
掲載していただきました。